

【施策評価調査】

施策名	4-3-1	商店街の活性化		111	施策目的 既存商店街の賑わいを創出し、購買率を高める。
	※高根沢町地域経営計画2006 該当ページ				
担当部課	建設産業部産業課	担当	商工業担当		施策内容 中心市街地活性化計画に基づき、宝積寺駅前開発と連動させて、地域商業の活性化を図ります。また、町内商店街での購買率を向上させるため、「ミニ核施設」の設置を促し、回遊性を図り賑わいの創出を推進するなど、中心市街地の魅力アップに繋がるよう推進します。商工会員においては、近年減少傾向にあるため新規の開店事業者を開拓し、また空き店舗等も有効に活用が図られるよう対策を講じます。（※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋）
		リーダー	石川正佳		
環境変化	JR宝積寺駅が、平成20年4月12日に、リニューアルオープンし、本町の玄関口にふさわしく、駅周辺は、人を惹きつける、魅力ある空間となった。 ちよっ蔵広場光のページェント事業により、宝積寺駅東口のちよっ蔵広場に、イルミネーションの装飾が行なわれた。				

■指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①:商品販売額(円)	平成14年次商品販売額 平成22年度→20%増	計画	3,114,508万円	3,234,297万円	3,354,086万円	3,473,875万円	3,593,663万円
	2,994,719万円	実績	※未測定	↓ 3,125,803万円	※未測定	※未測定	
指標②:ちよっ蔵広場の利用者数(情報発信館入館者数)	平成20年度見込み数	計画			6,000人	7,000人	
	6,000人	実績			↑ 18,981人	↑ 13,755人	
指標③:		計画					
		実績					
◆◇ 指標に関する特記事項 ◇◆ 商業統計データのため、平成20年度は未測定である。（商品販売額は、本社で調査している会社を除いてある。）							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0

■事務事業事後評価 21年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか? (アウトカム)			
①商店街活性化支援費	当初	0	B	JR宝積寺駅東口のリニューアルオープンとちよっ蔵広場によって、明るい駅のイメージアップにつながっている。と同時に民間によるイルミネーション装飾は、癒しの空間創出に語り課題性と集客を狙い、商店街活性化の基盤づくりになった。			
	決算	0		13,755人 / 7,000人	今後の方向性 (自己評価)	継続	今後の方向性 (総合評価)
②	当初						
	決算			/	今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)
③	当初						
	決算			/	今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)
④	当初						
	決算			/	今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)
⑤	当初						
	決算			/	今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)

■施策事後評価 21年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
	総合評価	<p>既存商店街は、手を加え購買力を持ち直す状況ではないことから、現存している店主自らが活性化を考えるような人づくりに力点を置いて進めて行くべきである。そのために、ちよっ蔵広場の恒常的な賑わいの創出は、考え方を変える身近なモデルとなっている。</p> <p>期待した成果が得られていないと評価する。 現下の社会情勢を踏まえつつ、ちよっ蔵広場の賑わいからどう拡がりを繋げていくのか、本来商工会や商店街経営者が真剣になって取り組むべき課題だが、町としてすべきことを見極め、どこに力点を置くのか、施策展開についてよく検討すること。</p>